

←渡辺 治・一橋大学名誉教授



↑ヒップホップダンス

←制服向上委員会の歌



Who's Who

九条の会フズ・フウ

日本社会の未来を安倍晋三に託そうと思っている国民がどれほどいるのか。ごまかしに満ちたメディアに誘導された「世論」の危うさを感じます。安倍晋三の「強い国」造りとは何か。以前は「美しい国」が強調されました。前政権が混乱させた日米関係を「完全に回復した」と誇らしげに宣言する安倍政権は、日米合意に基づいて基地県内移転に沖縄県民の理解を得ると言います。「強い国」のための沖縄基地機能強化。安倍晋三には沖縄の美ら海を「美しい」とは感じられないようです。

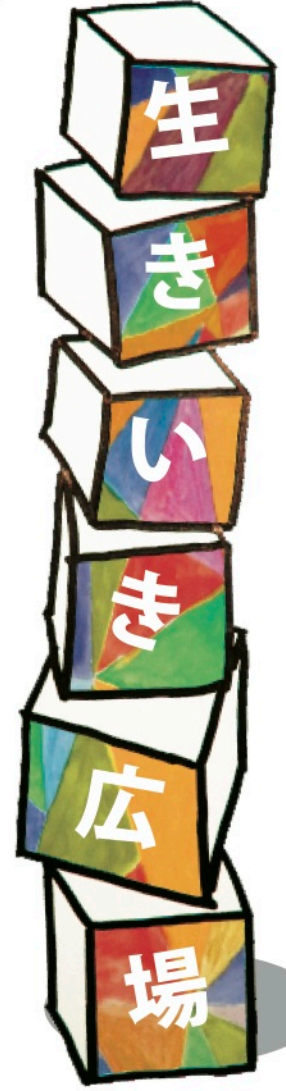
彼が敬愛する祖父・岸信介は、日本が国連に加盟した1956年に、訪問した米国で記者団に沖縄返還を要求する意思の有無を問われて「沖縄の帰属問題は米国の国内問題」と回答しました。

15年戦争で沖縄県民は日本政府と軍部に見捨てられ、終戦直後は昭和天皇に見捨てられ、日本国憲法

制定の審議からも排除されました。にもかかわらず県民世論をほぼ二分した「本土復帰」問題で沖縄県民は「日本国憲法のもとに復帰」することを決断しました。その沖縄は、憲法の上に日米安保条約を置く議員らによって、三度見捨てられようとしているように見えます。TPP参加を表明した安倍晋三は「守るべきものは守る」と公言していますが、「本気が？」と問いたくなります。

日米関係を「基軸」とする日本外交政策のもとで、日米の「守るもの」と「攻めるもの」が対立した時、安倍晋三は日本の「強さ」をどんなふうを示すのか。いずれにせよ、沖縄と日本国憲法は安倍晋三の「守るべきもの」には入っていないようです。未来を見通すなら、日本国憲法第9条が光彩を放つ方向に歴史は進むでしょうが、そのための戦いに倦まず弛まず力を尽くして、日本と世界の歴史にかすかな名を刻む生き方を守りたいものです。

大田九条の会 村中哲也



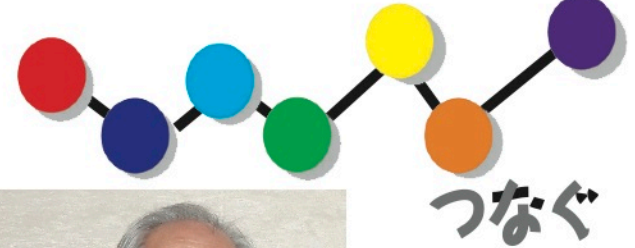
荒川区9条の会連絡会「一周年記念のつどい」

荒川区9条の会連絡会は発足後1年4ヶ月で区内の9条の会と平和憲法を守る荒川の会、個人などで構成しています。世話人、事務局を選出して運動を進めています。基本的には、それぞれの会が独自に駅頭宣伝行動や学習会等をおこなっています。連絡会は経験交流の場となっています。

2月23日の1周年記念「講演と音楽の集い」は、昨年10月から計画しました。改憲勢力の自民党が総選挙で躍進し時宜を得た、つどいとなりました。オープニングは、地元可愛い子どもたちのヒップホップダンス。講演は、渡辺 治・一橋大学名誉教授より「総選挙後の情勢と9条の会の役割」について90分の講演を受けました。その後は、アイドルグループの制服向上委員会の歌という流れで親しみやすいつどいを心がけました。今回の参加者層は、ヒップホップダンスの子どもたちの若いお母さんや、お父さん方が40人近く参加し、熱心に渡辺さんの話を聞いてくれました。来場者の方から「堅い集会在子どもたちのダンスや制服向上委員会の歌などで、わかりやすく、親しみやすかった」、「とても楽しい会でした。渡辺先生の話とてもわかりやすく、よくわかった気がします。年配の人だけでなく、若い人にも知っていただける会になっていたと思います」と感想やご意見をいただきました。これを力に区内で改憲反対勢力を増やし、運動を強めていきたいと思います。

事務局長・大内良雄

リレー随筆(3)



「フクシマ」の風化に抗して!

福島県九条の会事務局長 真木 實彦

原発再稼働を企む政府の秘められた意思の強固さは、昨年以來現地で強行され始めた「フクシマの回復」のための荒っぽい政策にもよく現れています。「フクシマ」は着々と復興に向かっていくという「雰囲気づくり」が何よりも重要なわけです。

しかし、正常な人間生活の場の復権という視点から見れば現場はまだ何も解決されていません。「除染」、「健康管理」、「賠償」の問題など、それらはいずれも国と東電に抗しつつ進められる長い苦悩に満ちた闘いだということを痛切に実感しています。

「解決したフクシマ」の演出は、あたかも軍事同盟化した日米安保の実態を覆い隠そうとする所業にも似ています。いずれも「覆われた」遠隔地と少数者の犠牲を無視して進められる残酷な現実が直視されなければなりません。その点にこそ「フクシマ」と「オキナワ」の共通項が認められます。少数者の叫びを全国民の世論にまで高めること、ここに問題解決の展望と



日本の民主主義の成熟の課題があると考えないわけにはいかないのです。

そのために、小さいことですが原発被災地の現実を全国の人々に実感してもらうことの重要性を考え、現地の九条の会では被災地の案内を世話する企画を始めています。

ご自分の目で「フクシマの現実」をじっくり見ていただければと願っています。